

広域行政調査
特別委員会活動報告
(要旨)

調査テーマ

「広域行政と合併のメリット・デメリットの調査について」

当特別委員会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で十分な調査ができず、委員会における意見を集約するところまでは至りませんでした。そこで委員の意見を紹介し、広域行政調査特別委員会の報告とします。

【1】「中核市を目指すことについて」は、

一、中核市となることで、福祉、保健衛生、環境、都市計画など市で実施できる事務が大幅に拡大し市民サービスの向上が期待できる。
一、特に新型コロナウイルス感染症が拡大している状況下において、半田市独自の保健所を持つことは感染症対策として大きなメリットがある。
一、中核市になること

で増加する行政事務に対する財源については、国から補填される。

一、今期はやむを得ず調査不足となったが、中核市を目指すことは非常に重要な課題であるので、来期も継続して調査することが必要である。

【2】西尾市と幡豆3

町の視察を踏まえた「市町合併」について
一、合併により、人件費の削減は進んだが、公共施設の削減は思うように進まなかった。

一、合併のように大きな政治判断が必要な事業は行政任せでは進まない。
一、市民が不便を感じずに合併することが成功の秘訣である。

一、半田市の近隣市町は観光資源が豊富であるため、合併した場合は視察先の西尾市と同様に観光分野での魅力の高まりが期待できる。
一、合併は究極の行政改革である。
一、西尾市は、合併す

るなら「この組み合わせしかない」という状況で、スムーズに合併することができたが、その様な組み合わせのない半田市が合併を目指す場合には、合併の相手にメリットを十分に示す必要がある。

【3】「一部事務組合

のメリット・デメリットについて」は、
一、多くの事務について広域的に事務を行った方がスケールメリットを得られ、人件費、施設維持費・運営費等で費用削減が図られていることが分かった。

一、組合議会議員は、各市議会の代表として組合議会に出席しているため、実質的に一議員としての選択ができないことに問題がある。
一、広域行政が多岐に渡っている現状に鑑みると、4つある一部事務組合の整理統合よりも、市町合併で行政改革を実行することの方が意味があり、合理的ではないか。

南吉を活かしたまちづくり
調査特別委員会活動報告
(要旨)

調査テーマ

「南吉を活かしたまちづくり」

新美南吉は、生誕100年、没後70年が過ぎた今も、高く評価され愛され続けています。今日の様に評価されるようになったのは、没後の顕彰活動のおかげです。また、30年前に始まった彼岸花の保全活動も、市民の善意話の世界を描けるまでになりました。この南吉の文学顕彰と彼岸花の保全活動を受け継ぎ、まちづくりに活かす必要があります。

課題を整理すると、記念館へは、毎年5万人以上の来館があるうち、80%以上が知多半島外です。市内からの来館は、10%程度です。また、新美南吉童話賞は、2020年度で32回を迎え毎回2千編近く応募があります。この童話賞でも、市民か

らの応募数は1割程度です。

次に、学校教育では、南吉の「ごんぎつね」は、小学4年生の国語の全検定教科書に採用されています。必ず南吉と出会うのはこの機会のみです。また、市内の小中学生が記念館を訪れる機会を設けていません。

朝読など読書の機会や、「集団読書テキスト」を活用した南吉学習や「新美南吉読書感想画コンクール」などは、授業での取り組みは任意とのこと。新美南吉が遺したもう一つの財産、彼岸花の保全活動は、活動の中心を担う方の世代交代が進んでおらず、活動の継続が危ぶまれる状況です。

新美南吉は、全国的に高い評価を得ていますが、半田市では、作品に親しむ機会づくりが充分できていません。そこで、以下の提言を行いました。
一、学校教育において

は、「市内全ての小中学生の南吉記念館への訪問」・「集団読書テキストの更なる活用」・「教育担当者への南吉研修の実施」など、南吉と出会う機会を設けて下さい。

一、南吉童話を題材にして、ブックスタート時の絵本プレゼント、幼児期の読み聞かせ、朗読会などを実施する。

一、街角で南吉作品に出会えるよう、JR半田駅前土地区画整理事業の折や市内ゆかりの地にモニメント等の設置を計画して下さい。

一、矢勝川の彼岸花保全活動を確実に継続するために、奉仕活動に依存しない仕組みを作ってください。

一、南吉関連事業においては、あらゆる世代が南吉に親しめるように、教育部は全庁的な取組みに発展するよう一層の連携を図り、計画的に実施して下さい。

